

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2530102074
法人名	医療法人 白桜会 小金沢歯科診療所
事業所名	グループホームさくら
訪問調査日	2008年 11月 13日
評価確定日	2008年 3月 2日
評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2530102074
法人名	医療法人 白桜会 小金沢歯科診療所
事業所名	グループホーム さくら
所在地	大津市大石東四丁目5-6 (電 話) 077-546-5167

評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会
所在地	滋賀県野洲市富波乙681-56
訪問調査日	平成20年11月13日

【情報提供票より】平成20年11月1日)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 11 月 10 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	17 人 常勤 3 人, 非常勤 124 人, 常勤換算 7.6

(2) 建物概要

建物構造	順耐火 造り
	2階建ての, 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000~60,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円	
敷 金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(8月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1		名	要介護2	1 名	
要介護3	5 名		要介護4	2 名	
要介護5	1 名		要支援2		名
年齢	平均 87.4 歳	最低	82 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 緑生会 南大津クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームさくらは、大津市郊外の桜谷パークタウンの閑静な住宅街の中にあり、すぐ隣が設立母体の小金沢歯科診療所となっている。また、近くに薬局、美容院とスーパーマーケットがあり生活に便利な所に位置している。「いつもの人と、いつもの街で穏やかに暮らす。」という理念を掲げている。法人内での各事業と連携をとりながら地域に根ざしたグループホームを目指している。施設長の強力な指導と併せ、職員さんも個別に研鑽に励んでいる。徹底した個別の対応がされており、職員さんの明るい笑顔とともに、明るい雰囲気グループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回も同じ評価機関の評価であった。重度化や終末期に向けた対応では、この1年の間にグループホームで看取りを経験されている。施設長は「ホームでの看取りには限界があり全ての人を看取れるわけではない。条件を整えば看取りをすることが可能であり、グループホームとしても意義のあることである。」といわれその考え方や条件を詳しく文章化され家族に説明されている。職員研修では①必要と思われる研修、②資格習得につながる研修、③職員が希望する研修と大まかに区別し参加できるように配慮されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が一通りまとめ上げた自己評価を、職員は仕事の合間に読み返したり、ミーティングで内容を検討したりしながら、よりの確な評価になるように取り組まれている。職員は管理者に対して何事も遠慮しないで発言できる雰囲気にある。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月ごとに会議をもち利用者の状況やグループホームの活動状況を報告している。地域や家族の要望を運営に取り入れる姿勢はある。しかし2ヶ月に1回会議をもたれてはいるが運営に反映される状況にはいたっていない。地域や家族の要望、グループホームの事情等それぞれの立場から積極的に意見を交換し、会議の継続の中でそれを活かした取り組みに結びつけてほしい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>昨年度の評価を受けて、家族会を持たれたが、家族の本音といえる意見は出ていない。家族の本音を聞くべく家族アンケートを実施したいと考えておられる。がまだ実施できていない。家族の意向を聞くこととする姿勢は十分に持っておられるので、家族の立場からは本音はなかなか言えないことを理解したうえで工夫を凝らし、昨年からの課題を是非実現してほしい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者一人ひとりが自治会に入会して、季節ごとの行事や催しには積極的に参加している。運営推進会議にも地域の方に入ってもらっている。しかしまだまだ地域とのつながりは十分とはいえない。自治会の行事等で交流することが一つのきっかけとなり、気軽に訪問してくれる人たちが増えることをホームとして期待している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	齢を重ねることは、それだけで意義があり尊敬されるものだという考えを根底に、「いつもの人といつもの街で穏やかに健やかに暮らす」という理念がつけられている。理念は入り口に、縁取りのある色紙に掲示されていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実践に結びつけるため、一人ひとりの今までの歩みを大切にされたケアが具体的に示されている。職員の面接からも理念を十分に理解し、管理者とともに実践に向けて日々取り組んでいる様子が伺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者一人ひとりが自治会に加入し、敬老会やふれあいサロン、お花見など、季節の行事に参加し、日ごろ味わえない雰囲気を楽しむ機会になっている。散歩の時に地域の人に出会えば、挨拶し、話す事もある。又法人が子ども110番を引き受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価もミーティングで話し合って内容を検討し、みんなで作り上げるという努力がみられた。事業所の内部にいと見えぬ部分を、外部評価で第三者に見てもらい、問題点があれば出来ることはすぐにでも取り組むという意気が感じられる。更により良いグループホームにしていきたいと考えておられる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者家族、自治会役員、老人会役員、民生委員、地域包括支援センター職員で構成されている。2ヶ月に1回会議を開催している。利用者の状況やグループホームでの取り組みを報告している。地域や家族の要望や意見を運営に取り入れている。評価結果、改善意見その後の取組みも報告している。	○	運営推進会議では、グループホームの現状や取り組み状況を報告するのみに終わらず、入居者を通じて認知症の理解やホームの機能を地域に発信していく場として大切である。運営推進会議を重ねることでその成果もみられてくる。会議を継続する中で課題を見出し検討、実践をしてほしい。自治会役員を中心に、一般の会員とのつながりを持ち、地域に根ざしたグループホームになっていく為に、積極的な意見交換の場となることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外においても、地域包括支援センターとは常に連携を図っている。現状や課題等の報告、困難事例の相談に行ったりしている。またグループホームとしても協力できる体制にある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶり等生活に関わることや健康面、金銭管理については個々に詳しい報告がされている。職員の異動については報告していない。	○	金銭管理・利用者の暮らしぶり等についての報告はされているが、職員の異動についてはあまり報告されていない。職員のプライバシー等の問題もあるようだが、家族にすれば面会に訪れた時に、新しい職員に替わっていただければ不安になるのではないだろうか。姓のみ知らせる等工夫をして、家族との信頼関係を大切にすることも、家族への異動の報告はしてほしい。
8	15	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価の家族アンケート結果でも、全員が聞いてもらっていると回答している。昨年度の外部評価の結果を受けて家族の本音を聞くべくグループホームがアンケート調査をしたい思われているが、実現はしていない。	○	グループホームの玄関にはご意見箱も設置している。「お世話になっています」と言った記述内容等は入っているが、運営に反映する意見等は入っていない。家族として本音はなかなか言えないことを十分理解した上で工夫を凝らし、昨年からの課題である、家族の意向を聞くという行動を、是非実現してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1階が小規模多機能型居宅介護施設となっている。、特に1階の職員には2階の利用者ともなじみの関係が出来るようにしている。グループホームの職員の退職等の場合は、十分になじみ関係のある1階の職員に後任に入ってもらおうようにしており、利用者への影響がなるべく少ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修については、順次職員が受けられるように計画を立てている。職員の経験年数に応じてステップアップを図るべく、個々の実力向上に努めながら、段階に応じて資格試験を受けるように支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟しており、管理者、職員が勉強会に参加している。管理者クラスでの意見交換は出来ているが、今のところ一般職員同士の交流は出来ていない。交換研修などその意義は十分認識されているので、状況が許せば実現されると思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の同意が得られれば1階の小規模多機能居宅介護施設を利用し、デイサービスや宿泊の体験を勧めている。また、グループホームでの日帰りや短期の泊まりを得て入居できるようにも配慮している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を人生の先輩として、どんなことでも学んでいこうという姿勢がみられる。出来るだけ一緒に過ごす時間を持つようにし、会話の中で今までの記憶の残存に触れたとき、それを手がかりに情報を集め話題提供するとともに、利用者の気持ちに寄り添っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と一緒に過ごす中で、利用者の行動や言われた言葉そのままを介護日誌に記録、その時々職員の気持ちや思いも記している。それらを基にその奥にある希望や意向を抽出するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はサービス計画作成担当者が、本人や家族の意向、職員の意見をとりいれて立てている。作成された介護計画は、その都度職員の活発な意見を取り込み修正を行う。長期、短期の目標のほか、さらに日常の細かな指標が立てられていて、綿密な計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6ヶ月に1度見直しているが、状態急変時にはその都度本人や家族、主治医等と相談して見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関による送迎サービスがある場合はそれを利用して受診同行しており、サービスがない場合は法人の車両を使用して通院介助をしている。また、ときにはドライブに出かけることもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関や、本人や家族の希望に基づく主治医への受診の際は職員が同行している。家族が受診同行する場合は、日常の利用者の状態や病態の報告書を主治医に提出し、写しを家族にも交付している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで看取りをした事例がある。終末期の対応については一人ひとり症状や家族の状況が異なるため、すべての人にホームが対応できるとは限らない。症状と併せてどのような環境を整えればホームでの看取りが可能なのか具体的な対応(指針)がつけられている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報は詰所で保管している。言葉かけや対応の面では、理念の根幹にある高齢者を尊敬すると言う事が徹底されており、職員の言葉掛けも利用者の目線で話され穏やかで自然である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりは出来るだけ少なくしている。出来る限り一人ひとりの希望に沿った生活をと、長く親しんでこられたタバコの喫煙等も禁止ということではなく、試行錯誤しながらなるべく他の方に不快感を与えないようにと、工夫されたスペースが設けられていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態が様々なので、できる方が限られていますが、盛り分けや配膳を手伝っていただいている。食事はゆったりと利用者のペースに合わせてさりげなく介助しながら一緒に食事している。職員の手作りおやつが良い香りを放っていた。		
		○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日に3回(午前・午後・夕食後)入浴時間が設けてあり、好みの時間に入浴していただいている。夕食後の入浴は職員の配置から手薄になることが多いが、そんな時は近くに住む管理者が対応される。普通浴が無理な場合は一階の施設のリフト浴を利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の能力に合わせて家事の役割を持っている。入居年数の経過と共にできることが減少しているが、洗濯物たたみ等は常にされている。訪問時はリーダー格の利用者が、自分の役割として口腔体操や歌を、大きな声でリードされ他の利用者も楽しんでいた。		
		○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材は献立材料を業者に入れてもらっている。買物は、個人的な個別の買物(例えばお菓子、日用品等)をしている。その時は、自分で金銭管理している方を除き、お財布を渡して、支払っていただいている。お天気の良い日は散歩もかねて、近くのお地藏さんまでお参りに出かけることが日常的になっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
		○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けていない。消防署からは防災の面から、夜間もなるべく施錠しないようにと指導されているが、防犯の面から、夜間は簡単な施錠をしている。グループホームは2階にある。エレベーターを操作し、階下に下りて外へ行かれる方もある。その時はさりげなく職員がついていくようにしている。2階の非常階段は危険なのでセンサーがなるようにしてある。		
		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導により定期的に避難訓練を実施している。避難後の利用者の保護については、自治会に依頼し、話し合っている。マニュアルも出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者用の食材を購入しており、カロリーは計算されている。水分摂取量としての記録はされていないが、三度の食事とおやつ時に水分補給が十分行えるよう気をつけている。食事の摂取量は記録され、その状況により個別に献立を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が興味をもたれるような言葉や作品、今までのグループホームの行事での楽しかったひとこま写真が、所狭しと飾られていた。採光も程よく、暖かな感じの空間造りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は平均して置かれているものか少なかった。入居当時持参されたものも、身体状況の変化から撤去せざるを得ない場合がある。そんな時は家族と相談しながらの居室の模様替えとなる。可愛いお人形が鎮座する部屋、好きなおやつがいつでも食べられるように置かれている部屋、亡きご主人の遺影が飾られている部屋もあった。		